＜様式 6-5 学校教育活動支援事業成果報告書＞

【教育活動の名称】　「屋外競技」野球・ソフトに親しもう♪
【副題】　～大谷グローブと共に夢を持って～

【学校名】近江八幡市立八幡小学校

１　本校の概要

1585 年に豊臣秀次公が八幡城を築き、それとともに発展していった町中にある。本校も創立１５１年で、近江八幡の町とともにその歴史を刻んできた。

「夢をもち　仲よく　元気で　がんばる子ども　～ふるさとに愛着を持ち、豊かな感性を磨く子ども～」を教育目標に、６３７名の児童が元気に通っている。

２　取り組んだ内容

（1）体育科「ティーボール」

素手でのキャッチボールからグローブを用いたキャッチボールへ、柔らかいゴムボールから少し硬いスポンジボールへと使用する用具を少しずつ変更することで児童の「難しい」「こわい」と思う気持ちを払拭で切る指導となるように心掛けた。

このように一斉に使用する道具を変更できるのは、一人一個のグローブがあるところが大きい。また、一人一個のグローブがあることで友だちが使っている間に学習が止まってしまうこともなく、体育の授業における運動量が大幅に向上した。

ゲームができるようになってくると、ほかの学級とリーグ戦をして学級のつながりを深めたり、野球を得意とする児童が注目されたりとなど、学級づくりの面でもよい影響があった。

男女関係なくベースボール型ゲームの取り組みに参加することができ、体育科の授業充実以外にも大きな教育効果があった。

（2）クラブ活動

児童のティーボール熱はクラブ活動にも広がった。屋外球技クラブ活動で、今までもグローブを使わなくてもできる柔らかいボールを使用したラケットベースボールや、キックベースボールには取り組んできた。

クラブ活動において、どのような球技に取り組むかは子どもたち自身が決めているのであるが、ティーボールやソフトボールといったベースボール型ゲームもその選択肢に加わることで、より一層活動が充実することにつながった。

３　活動の成果

授業の体育でティーボールに取り組むことにより、初めてグローブに触れる児童にとって、大変貴重な学びとなった。素手でボールを捕球する動作そのものに苦手意識や恐怖心を持っている児童がいた。体育科の授業の中で「いたくない、こわくない」とか児童自身が感じることは大変意味があり、捕球は痛くないことが分かった児童がより積極的に活動に参加している様子が見られた。また、ボールの硬さと関係なく技術的に捕球動作を難しく感じる子どももいたが、グローブを使うことでボールを捕球することが易しくなることに気づいた児童もいた。このティーボールの学習を通してグローブを使う良さとともに、ベースボール型のゲームの面白さに気づく児童が多く見られた。